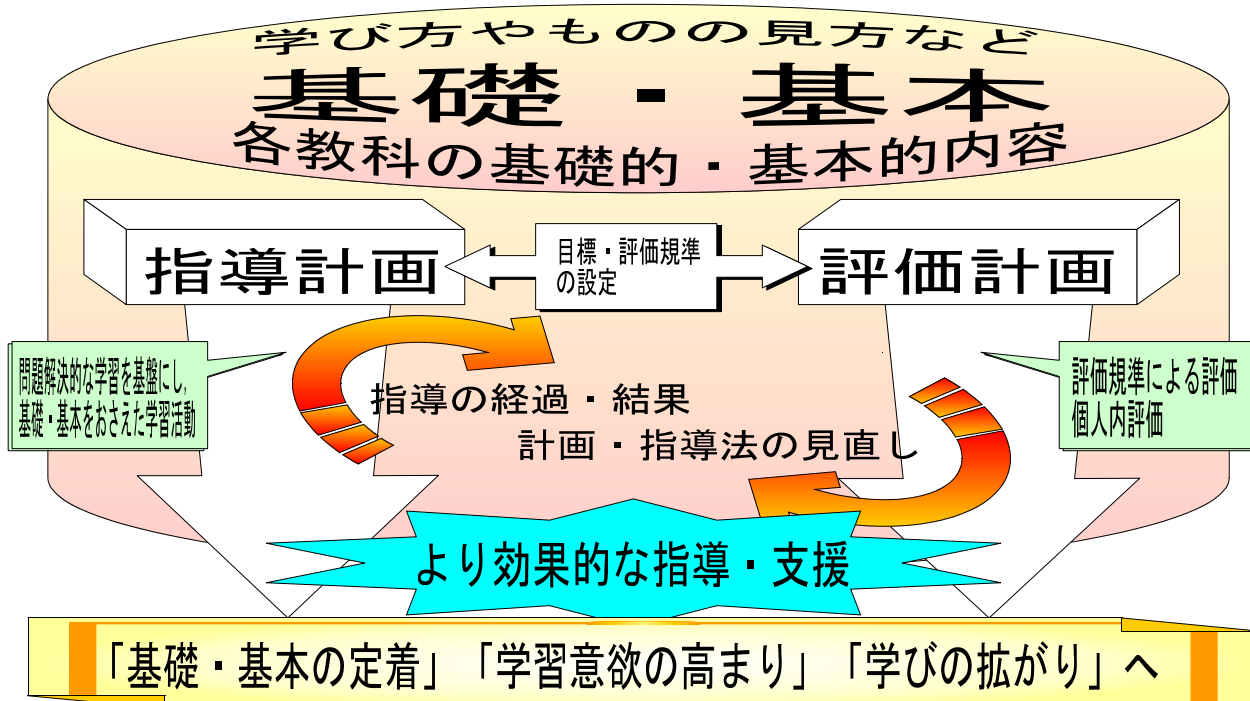


Ⅱ．視点 1

【視点 1】

基礎・基本を明確に位置付け、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫

指導と評価の一体化



1. 基礎・基本を位置付ける

「基礎・基本」とは

身につけたい資質や能力
を具体的な子どもの姿で

ここでいう基礎・基本とは、言葉を換えれば学習指導要領に示された目標や内容をさすものである。それは各教科の学習で身に付けたい資質や能力であり、まずはそれらを明らかにする必要がある。

その際に、各教科の目標に対応した評価の観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の観点を基本として教科ごとに示されていることを踏まえ、各教科またはその単元での基礎・基本を、子どもの姿でより具体的に示すことが大切である。

2. 指導計画と評価計画

指導計画と評価計画は表裏一体のものである。年間指導計画や単元の指導計画と共に評価計画がなければ、子どもたちにどのような力を身に付けさせなければならないのかを見通し、単元間のつながりや位置付けを考慮に入れて指導を進めることができないと考える。

「いつどこで・
何を・どのように」

指導計画と評価計画を充実させるためには、指導内容や学習展開と、評価規準や評価の方法が一体となって構築されていなければならない。

すなわち「いつどこで（場面）・何を（観点）・どのように（方法）」評

価するのかということを指導計画に位置付ける必要がある。

さらに、目標に達していないと判断される子どもに対する具体的な指導の方策が共に位置付けられることで、計画的で、効率的な指導が展開されていくと考える。

学習の過程を評価し、
指導の改善に生かす

効果的に指導を進めていくために、何よりも評価を指導に生かしていくということが重要である。

評価を指導に生かすために重要なことは、子どもたちの学習状況を指導過程の中で評価し、それを指導の改善に生かし続けるということである。

それは指導と評価の連関性が生まれることであり、子ども側からみると学びの連続性がスパイラル形式で生まれる事になる。

個人内評価の必要性和
評価の観点

子どもの学びの連続性がスパイラル形式で生まれ、さらに学びが高まっていく要因となるには、個人内評価の充実は欠かせない。

個人内評価の観点として、子どもたちがどのように考え、よりよく問題を解決しようとしたかという資質の側面、自らの学習状況に気づいたり自分を見つめ直したりする情意的な側面、新しい内容がわかったという認知的な側面などがある。

これらの側面から、子どもたちに対して、よさや可能性、進歩の状況进行评估し、子どもたちに伝えることで、学習意欲を高めることができる。

【視点1】 基礎・基本を明確に位置づけ、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫

実践例 中3社会

この単元でいう基礎・基本とは、税金の種類や制度を認識し、国や地方公共団体（行政）が果たしている経済的役割・諸問題を理解することである。そのために、単元の構成は、社会資本・租税・財政・社会福祉・公害問題・日本の諸課題と段階的に日本経済の仕組みや課題が理解できるようになっている。本単元では、積極的にグループ活動を取り入れ、国民から見た「税」を意識させたり、政府から見た「税」を意識させたりと生徒同士が意見交換するなかで「税の本質」「税の公平性」に気づかせることとした。また、多くの資料・グラフを提示し、写真やデータから更に多くのことを考えさせ、生徒自ら日本が抱える諸問題に気づくように工夫してきた。

単元指導計画の中では、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」評価（評価規準）するのかを明確にし、更に毎時間の学習目標を明記した。また、生徒たちの税に対する見方や考えなどの思考がどのように変化していくのかを指導計画の中に盛り込み、子どもの側に立った計画作りを行った。

政府の仕事と租税 1/7

学習目標 ○身近な事例を通して、社会資本と公共サービスの提供を政府が行っていることに気づき、政府が果たしている役割を考える。

主な学習内容・思考の流れ

教師の関わり・評価

社会資本と公共サービスって何だろう？

- 民間企業を補い民間企業では供給されにくい施設って何がある？（社会資本）

高速道路・公園・一般道路・学校
公民館・飛行場・水道管・線路

- 民間企業を補い民間企業では供給されにくい（公共サービス）

警察官・消防士・公立学校教員
などの仕事

【関心・意欲・態度】

効果的な指導を進めるためのポイント①
～導入～

身の回りのものから「税」との関わりを意識させていく。
生徒の「えっ」という驚きを引き出させたい。その驚きが生徒の興味・関心と呼び、学ぶ意欲を高める。

確かに、社会資本や公共サービスに民間と同じように料金がかかってしま
迫されるし、収入の差によって受けられるサービスが異な
こんなにいっぱい税金でまかなわれているんだ。

こんなところに税金が使われてい
たなんて知らなかったよ。

政府の仕事に必要なお金って、どこから来るのだろう？

税金

直接税

国 税

地方税

間接税

税者＝納税者） 間接税（担

税金ってこんなに種類があるのね。
いつの間にか私も納税していたわ。
全然感じなかった。

【知識・理解】

税制の大まかな仕組みと役割
について理解し、その知識を

効果的な指導を進めるためのポイント②
～課題把握～

課題を把握させるには、生徒たちの思考がどのように変化
していくのかを予想しておく必要がある。これにより生徒
の疑問を効果的に導き出し、考察させることで、より深く
理解させることができる。

こんなにたくさんの所から税金が納められているんだ
表示となり、納めているって感覚は無いに等しいよね。
させないで納税をさせるのってどうなのかな～税金って
う？

学習目標 ○累進課税制度の意義と公平さについて考え、理解する。

主な学習内容

教師の関わり・評価

所得税って、どうやって集めるの？

- 納入方法とは？
源泉徴収・確定申告
- 所得税を納めよう！

年収 1,800 万円以上のグループ
年収 900 万円以上、1,800 万円未満のグループ
年収 330 万円以上、900 万円未満のグループ
年収 330 万円未満のグループ

基礎・基本定着のポイント①

本単元において、グループ活動を積極的に
取り入れた。収入の異なる人々の気持ちを
模擬的に体感し、お互いに意見交流をする
ことで、税制度をより深く理解し、課題を
見出すことが目的である。

※それぞれの立

どのくらい税を納めるのが妥当か、それぞれの立場から意見
を出させる。グループ意見交換・全体意見交換

<資料提示>

1,000 万円を見せる

【関心・意欲・態度】

班の話し合いに積極的に関わ
り、他の意見を尊重しながら、
自分の考えや意見をまとめよ
うとしている。

政府の仕事と租税 2/7 (本時)

高所得者にしてみれば、たくさん税金を取られているって意識になるし、低所得者にしてみれば、納税すら家計を圧迫してしまふ。できれば納めたくはないはず。方法はないのだろうか？ どちらの意見も理解できるから難しい。

所得に応じて税率を変えるのは、本当に公平と言えるのだろうか。立場によって考え方は違ってくるし～

累進課税制度って、どんな制度？

●累進課税制度とは？

所得に応じて税率を設定し徴収する制度（所得税・

●累進課税制度は、公平な税制度なのか？

【思考・判断】公平さに目を向けて、納税方法を考えられる。

累進課税制度は、よく考えられた制度だと思う。だけど全ての人が納得できる制度だとは言

累進課税制度は、納得できる制度だと思わ。納税を「お金を取られる」って考えるから不公平に感じるのよ。助け合いが大切よ。

の歳入・歳出における内容を具体的に学習し、財政について関心を持つ。

○財政の働きを理解するとともに、資料の読み取りを通して財政の課題について考える。

財政のはたらき 3/7



主な学習内容・思考の流れ

教師の関わり・評価

「財政」って何のこと？

政府の収入（歳入）と支出（歳出）による活動

●歳入で一番多いのは？

税金による収入ではなく 公債金（つまり借金）だった。

●歳出で一番多いのは？

社会保障関係費だった。福祉にお金ってかかるんだね。

●借金（公債）はしっかり返しているの？

毎年借金を返せないのに、また次の年には借金をしている！
借金が年々膨らんでしまっている。

この先どうしたらいいのだろうか？＜グループ討論＞

【知識・理解】

政府の歳入・歳出における内容、その違いについて気づき、財政の働きについて理解し、知識を身につけている。（プリント）

<資料提示>
日本借金時計

財政の歳入の中で、最も多いのが公債（借金）だなんて、ビックリした。歳出の中で、その借金が完済できなくて、膨らんでいくことがわかった。でも、少子高齢化を考えると、強いられるのかな？

効果的な指導を進めるためのポイント③ ～評価～

一単位時間での評価の観点は、1つないし2つ。この時間で生徒の何を見取るか、また、どう次につなげていくかを押さえる必要がある。単元全体で4つの観点を見取るようにしていくことが大切であると考え。

【技能・表現】

日本のあるべき姿について、資料を基に自分の考えをわかりやすく発表する。（発表・プリント）

財政の役割って何だろう？

公共サービス・所得の再分配 景気の調整（財政政策）

※金融政策もあることを伝える

歳入の中で最も多いのが公債（借金）だなんてビックリ！このままだと日本は破産しちゃうよ。

財政の果たす役割は、年々増加していることはグラフを見てもよく分かる。税金を納めることは大切だってことも何となく理解できた。だったらその税金がどんな使われ方をしているのかを国民がしっかり見ていかなくてはダメなんだよね。でも、税金の額って、景気によっても上下するって初めて知った。経済の調整をする役割もあるんだね。

基礎・基本定着のポイント②

一時間ごとに学習目標を明確に位置づけた。ここで何を目標にするべきか。生徒たちにどんな力を身につけさせたいかをはっきり打ち出すことが大切。（評価規準のとの関わり）

インフレーション・デフレーションとは？

現在の日本の景気を考えよう

学習目標

○社会保障の基本的な考えと日本の社会保障制度の概略
○少子高齢社会の現状とこれからの社会保障の在り方につ

主な学習内容・思考の流れ

教師の関わり・評価



社会保障って何だろう？

- 「働かざる者、食うべからず。」って正しい？
世の中には、働きたくても働けない人が大勢いることを確認
個人ではどうすることもできない場合がある！
- 憲法でも最低限の生活が保障されている。覚えていますか。
憲法第25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」
- 社会保障の種類は？
社会保険・・・病気、老後に備える保険
公的扶助・・・生活費給付
社会福祉・・・障害者、高齢者などの生活保障
公衆衛生・・・医療、公衆衛生

社会保障関係費が歳出の中で一番割合が大きい。グラフを見て驚いたけど、国民の4人に1人が高齢者になる時代がやってくるんだね。つまり、労働者人口が少なくなるっていうだよ。税金は誰が納めてくれるんだろう。社会保障にかかるお金は、益々増えるば税金って本当に大切。でも、公共サービスが有料化になる時代が来るのかな。

【知識・理解】

社会保障の基本的な考えと日本の社会制度の概略を理解し、その知識を身につけている。(発表・プリント)

<資料提示>

OHP (写真)

少子高齢化が進むと益々公債額が増えてしまうわ。税金だけでやっていけるのかしら？



少子高齢社会の問題点を整理し

- 平均寿命が延びているけど
男性78.07歳 女
- 出生率が低下しているけど
1家庭に1.3人の子
国民の4人に1人が65歳以上なんだって！

基礎・基本定着のポイント③

具体物やOHPなどの教材を活用したことにより、生徒の興味関心を引き出し、意欲的に取り組むことができる。

<資料提示>

OHP (グラフ)

生産年齢人口の減少・・・つまり所得税や住民税の収入が減少する
高齢者の人口増加・・・社会保障費の増大

消費税の税率の引き上げに YESかNOか？
グループ毎に話し合う。

〔グループ討論→全体討論〕

税制問題・少子高齢化問題・公債金問題を理解した後、あらためて税金について考えさせる必要がある。そこで、「消費税」についてグループ及び全体討論を計画した。

税金の大切さは、よく分かった。税金の引き上げられようとしているのかも分かった。税金を減らす必要があるように思う。本当に必要なことだ。

政府が責任を持って財政を進めていくべきだし、国民はもっと関心を持って政府の活動を見いくべきだと思う。



税金のことがよくわかった。今必要なことは、国民が財政についてもっと理解し、課題をしっかり押さえることなんだ。やっぱり納税は、国民の義務だよ。

【技能・表現】

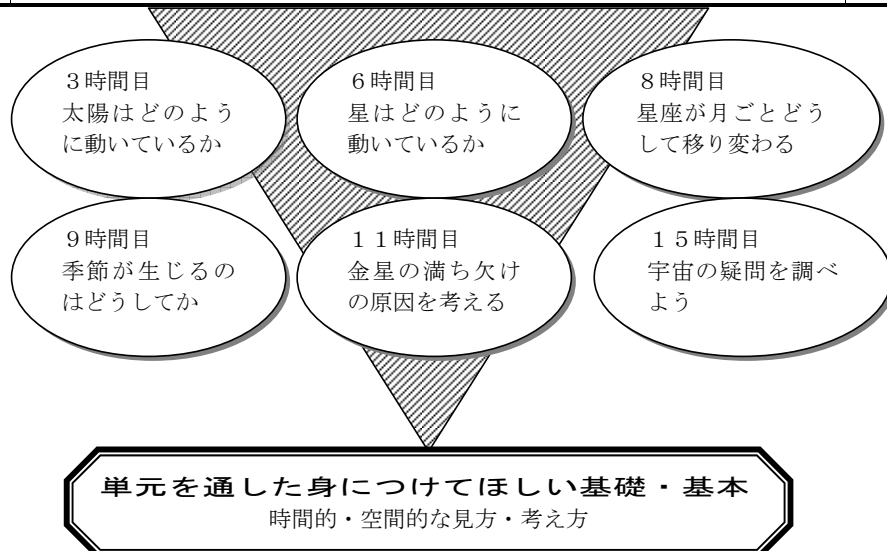
少子高齢社会に関する資料(表やグラフ)から問題点を導き出し、今後の政府の在り方、自分にできることなどをまとめて、発表することができる。(発表・プリント)

【視点1】基礎・基本を明確に位置付け、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫

単元の導入に当たる本時では、小学校で学習した「月」「太陽」という身近な題材をもとに、生徒一人一人がイメージしやすく興味の引きやすい課題を複数設定した。その中で、生徒は、日常感じている身近な疑問を選択し、主体的に課題解決に取り組めるように工夫した。

本時の学習の中で身につけてほしい『空間的な見方・考え方』を、次時以降の学習の中で確実に定着できるよう単元の指導計画をつくり、単元導入の工夫のみならず、単元を通して身近な疑問を解決しながら基礎・基本を身につけることができるように工夫した。

	主な学習内容	教師の働きかけ（●は評価規準）
課題の把握	自分の知っている身近な天体をあげてみよう。 ・地球 ・月 ・太陽 ・金星 ・火星 ・水星 ・木星 ・土星 ・天王星 ・海王星 ・冥王星 身近な太陽と月について調べよう 太陽と月について知っていることをあげる。 ・太陽：大きい、光合成、太陽電池、日食、昼、… ・月：クレーター、満ち欠け、うさぎ、… 4つの課題について、自分の興味のある課題を選択する。 クレーター 日食 夕焼け 月の満ち欠け	効果的な指導を進めるため① 《課題選択》 身近な題材の中から、自分の興味・関心や知識から、取り組んでみたい題材を選ぶことで、一単位時間の課題解決への意欲を喚起する。
課題の追求	それぞれの課題について実験を行う。 粉末などへの衝突実験 モデルを利用した実験 アクリルパイプを利用した実験 モデルを利用した実験 ・水の量が多いと飛び散る ・水の量が少ないとくぼみができる ・月と太陽の距離が違う ・月が太陽と重なるとき ・水に何も混ざないと光はそのまま通過する ・つや出し剤を混ぜると青い部分と赤い部分ができる ・太陽と地球の間にあるとき新月 ・太陽と反対側にあると満月 ・光が当たっている部分が地球から見える	・人数による実験器具の調整を図る。 ●様々な天文現象の実験に参加し、 基礎基本の定着を図るために 《モデル化》 時間的・空間的に大きなものを理科室で考えていくために、様々なモデルを利用していく必要がある。ここでの天文現象をモデルで実験を行うことで、これからの学習の中でも同様に考えていくことができることとなる。
課題の解決	各グループが調べ、考えたことを交流する。 ・月にはたくさんの隕石などによりクレーターができた。 ・月に太陽が隠れ、日食が起こる ・大気層を通過することで、赤い光が多く現れる。 ・地球を回ることによって光が当たっているところの見え方がかわる。 天体のモデル 地上での見え方 成因を考える 天体の距離感	効果的な指導を進めるため② 《共有化》 それぞれの課題解決がこれからの授業の中で共有できることを知らせ、単元に対する学習意欲を喚起する。
	太陽と月について、さらに知りたいことなどをあげる。	



【視点1】 基礎・基本を明確に位置づけ、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫について

中1国語 「動物の睡眠と暮らし」より

本教材『動物の睡眠と暮らし』は説明的文章である。「客観的な事実」について書かれている部分と、「筆者の意見」が述べられている部分を区別しながら読み、本文の論理の展開に即して「筆者の意見」を要約することができることをねらいとしている。

導入時に短い新聞記事(コラム)を活用し、それを要約し友だちにその内容を伝える学習を行った。要約する際に困ったことやわかりやすく要約するポイントを話し合い、事実と意見を区別して読み取っていく必要感を与えた。その中で、説明的文章の前教材『ものづくりの知恵』で学習した「客観的な事実」と「筆者の意見」を区別して読み進める方法(サイドラインを引く等)を振り返り、本教材の中で活用できるという意識を持つことができた。

このように既習を生かして学習していくという、見通しを持たせることで、子どもたちが自らその方法を活用していく姿が見られ、筆者の意見を要約するための学習展開が効果的に行われたと考える。

さらに本教材では、単なる筆者の意見の要約だけで終わるのではなく、「睡眠」と自分の生活を振り返る場面を設定した。そうすることで、自分の生活を見つめ直し、「睡眠」をきっかけとして生活全般の在り方について自分なりの考えを持つ姿が見られた。

時	主 な 学 習 内 容	教師の関わり(○評価)
1	次の文章を短くまとめて隣の人に伝えよう！！ まずは、文章を短くまとめよう！！ テレビで見たことがある記事だ。 ?短くまとめるのが難しい? 事実と意見に分けてみよう。 隣の人に記事の内容を伝えよう！！ わかりやすかった。 わかりにくい。 要約するためのポイントを確認しよう！！	効果的な指導を進めるためのポイント (既習事項を生かした導入の工夫) 導入時に短い新聞記事(コラム)を活用し、それを要約して友だちにその内容を伝えていった。要約する際に困ったことやわかりやすく要約するポイントを話し合い、事実と意見を区別して読み取っていく必要感を持つことができた。 ・話の中心をとらえ、それに必要な事実と意見をとらえる。ということを示す。
2	みんなの睡眠時間はどのくらい? 4時間 6時間 8時間 10時間 「眠る」ことはどんなことだろう? 体力の回復。 寝ないと死んじゃう。 脳が活動しないから、頭が休まる。 本文の筆者の意見をふまえていて振り返ってみよう。 本文を読んで、初めて知ったことや疑問点を上げよう。 体内時計? 昼間寝れば、夜起きても大丈夫? 動物は生活にあった睡眠をちゃんととっているんだ。	・発表を聞きながら、他者との相違を確認させる。 ○【関】本文の内容から、自分の睡眠時間や「眠る」ことがどんなことかを確認させる。 効果的な指導を進めるためのポイント (自分の生活を振り返り、学習意欲を高める) 本文を読みながら、自分の経験と対比させることで、筆者が何を訴えている(筆者の意見)のかを読み取るための意欲を高めた。 る。 ○【関】範読を良く聞きながら、自分の意見を書いたり、発表している。 (発言・ノート)

3	本文を3つのまとまりに分けよう。 ※形式段落番号で答える。 ・① 問題提起 ・②～⑪ 問題に対する具体例 ・⑫～⑯ 筆者の意見 第二大段落をさらに3つに分けよう。 ※接続語に着目して答える。どこに着目して答える。 ・②～④ 「<u>まず</u>、動物の…」⇒『睡眠量』 ・⑤～⑦ 「<u>次に</u>、ネズミを…」⇒『睡眠時間帯』 ・⑧～⑯ 「<u>また</u>、動物の…」⇒『寝方』	効果的な指導を進めるためのポイント (話の中心部分をとらえることを苦手としている生徒への支援) 話の中心部分をとらえることを苦手としている生徒に対し、接続語に着目してサイドラインを引くように支援した。そうすることで、論理の展開に即しながら内容ごとのまとまりが見つけやすく、キーワード・キーセンテンスに自ら気付けるようにした。 ○【読】話の中心部分をとらえている。 (発言・ノート)
4 本時	第三大段落の内容を要約しよう。 《事実》 ・サル仲間皆、似たり寄ったりの睡眠量。 ・夜行性のサルを除けば、夜になると寝る。 ・ヒトに近い類人猿はベッドを作って横になって寝る。 ↓ ・人間の睡眠も動物の習性である 効果的な指導を進めるためのポイント (既習事項を生かした支援) 「筆者の意見」を要約することにつまずいている生徒に対し、前教材で取り組んだ「客観的な事実」と「筆者の意見」を区別し、サイドラインをひくように支援した。その後、「筆者の意見」を抜き出し、要約する活動に取り組むようにした。 ・サル仲間が人間と同じ睡眠量・睡眠時間帯・寝方をしていることから、人間も自然の仕組みに従って、自らの体内時計に従って暮らすことが大切だ。	・既習事項 「事実」＝客観的に見ても変わらないこと。 「意見」＝主観的な考え・思考を確認する。 ・3つのキーワードにサイドラインをひかせる。 ①事実 ②意見 ③話の中心 ——線 ~~~~線 ○【読】論理の展開に即して、内容を要約している。 (発言・ノート)
5	筆者の意見をふまえて、自分の睡眠と暮らしについて振り返ってみよう。 動物としての人間の暮らしを考えて、睡眠をしっかりとっていかないといけない。 【教材のまとめ】	○【関】筆者の主張を理解し、自分の生活と振り返る。 効果的な指導を進めるためのポイント (自分の生活を振り返り、自分なりの考えを持つ) 筆者の意見を要約し、そこから自分の「睡眠」と生活を振り返る場面を設定した。そこで自分の生活を見つめ直し、「睡眠」をきっかけに自分の生活に対する考えを持つ姿が見られた。

(1) 視点1 基礎・基本を明確に位置づけ、効果的な指導を進めるための指導計画の工夫について

本単元の基礎・基本を、「3位数（1000まで）の数を10や100のまとまりによりとらえ、十進位取りの考え方を確実にすること。」「十進位取りによって、3位数（1000まで）の数をあらわすこと（記数法、命数法）を確実にすること。」ととらえ、以下の6点をおさえていくことが大切であると考えて指導計画を作成した。

- ①個数の大きさをとらえるのに、全体の個数を10個ずつのまとまりにし、10個ずつのまとまりが10できたときは、さらにそれを10ずつまとめて100個のまとまりにするという操作を通して、数の十進構造を理解すること。
- ②全体の個数を言い表す場合は、十、百のまとまりを単位として、100のまとまりが2のなら二百など、単位の大きさと、その単位の個数を組み合わせて表せばよいという命数法を理解すること。
- ③個数の大きさを数字で表すとき、100のまとまりは百の位に表し、10のまとまりは十の位に表し、半端の数は一の位に表すという記数法を理解すること。
- ④数の大小、順序、系列が分かり、数直線上に表すことができること。
- ⑤数を、1がいくつ集まったとみるだけではなく、10や100を単位として、それらがいくつ集まった数かともみられるようにすること。
- ⑥「50+70」を「10が、5こと7ことで12こあるから、120」と考えて計算するように、加法や減法の計算を通して、数の大きさを多面的にとらえることができること。

学習を展開していく中では効果的な指導を進めるために、

④「体験的な活動を豊富に盛り込み、数理的な活動の良さに気づく」学習場面

⑥「定着を図る」学習場面

のバランスを大切にした指導計画を構築した。

④のような学習場面として、何百匹の動物が描かれている絵、ミニ積み木・数え棒など、具体物や半具体物を数える活動に取り組み、子どもたちが「100のまとまり」で数える良さに気づき、実感できるようにした。

また、⑥のような学習場面として、数値や数える対象を変えるなど、変化のある繰り返し指導を展開し、既習事項を生かしながら解決できるようにした。

このように、「体験的な活動を豊富に盛り込み、算数的な良さに気づく」学習場面と、「習熟を図る」学習場面のバランスを大切にした指導計画の工夫を図ることによって、これまでの学習を生かし、数え方、読み方、書き方、数の構成など、実感を伴いながら理解を図っていけると考えた。

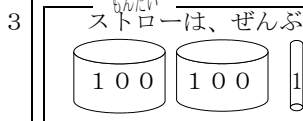
時	学 習 活 動	○効果的な指導を進めるためのポイント① (「100のまとまり」の良さに気づくために)	評価規準	○支援・留意点
1	ミニ積み木取りゲーム ゲームのルール ① さいしよに、全員 ② 隣の人とじゃんけ ③ グーで勝ったら1 ④ 一番多く積み木を さあ、実際にや 今、ぐちゃぐちゃ ・分かんない。 ・見 がい 何こあるか、かん 1つつつ作せん 1こずつ数えていると 分かったけど、パッと見ても 何個か分かんないな。 20のまとまり作せん 20のまとまりを作ると、 答えが出たし、見やすいぞ。 【全体交流】 1個ずつ数えてもで 10個ずつ、20個 どの数え方でも、答 100が2つと10 まとめ 10のまとまりを	本実践では児童の実態を考え、また一人一人が操作活動に取り組むことを重視し、一人あたり235個の具体物を用意した。グループでの共同的な活動で操作活動を行うのであれば、もっと多い数を扱うことも考えられる。どちらの活動においても「100のまとまり」を作って数える良さに実感を伴って気づけるようにすることが大切である。 また、子どもたち同士の話し合いの手だてとして、いくつずつのまとまりにしたのかを、誰が見ても分かるような工夫をすることも大切である。 答えが出たし、見やすいぞ。 100のまとまり作せん 100のまとまりを作ると、 答えが出たし、見やすいぞ。 100のまとまり作せん 100のまとまりを作ると、 何百何十何つという 答えが見やすいぞ。	○ゲームの内容をわかりやすく説明し、見通しと意欲をもつようにする。 ・235個のミニ積み木の入った袋を提示する。 積み木の扱いについて、どうすればよいか押さえる 考：10のまとまりや、100のまとまりにするなど、自分なりに工夫して数えようとしている。 【観察・対話】 ○1年生の時の大きな数の学習をもとに、まとまりをつくれれば数えやすかったことを想起するようにする。 また結果よりも、数の工夫とまとまりのしぼって、考えら	

○効果的な指導を進めるためのポイント②

(自力解決場面における支援)

10、20、50、100など様々な考えが出てくることが予想される。一人一人の考えを肯定的に評価しながら、課題である「何個あるかが簡単に分かる」をより意識させ、よりよい解決方法に目をむけさせていくようにする。

- 2 ○数え棒取りゲームを通
○3位数の記数法と位取



百が二つと、一が六つで

【かだい】二百六の、数字の書

100が2こ、10が
100が2こ、あと6
100が2こ、10が
位取り板で考えてみた

【全体交流】

26かな。でも、「二
2006かな。でも、十

1000未満の数の
数え方や数の構成など
について、実感の伴っ
た理解を図るとともに、
確実な定着を図るため
に、3・4・5時間目
において繰り返し指導
を行った。

その上で、1000
以上の数の学習を展開
した。

- 4 ○数カードから数、数が
○半具体物（10円玉）

- 5 つ分かを考える位
いくつ集まった数なのか

○効果的な指導を進めるためのポイント③

（学習内容に応じて、重視する活動のバランスを考慮した指導計画）

④「体験的な活動を豊富に盛り込み、数理的な処理の良さに気づく」
学習場面では、具体物や半具体物を数える活動に取り組み、子ども
たちが「100のまとまり」で数える良さに気づき、実感できるよ
うにした。

⑤「定着を図る」学習場面として、数値や教える対象を変えるなど、
変化のある繰り返し指導を展開し、既習事項を生かしながら解決で
きるようにした。

1時間目 目標 1000未満の数について、「100のまとまり」を
(④重視) 作って数える良さに気づく。

内容 ミニ積み木を、自分なりに工夫して数えて、数え方を
交流する。

2時間目 目標 空位のない1000未満の数の命数法、記数法につい
(④重視) て理解する。

内容 数え棒取りゲームを通して1時間目の習熟をはかり、
命数法、記数法と位取り板の指導を行う。

3時間目 目標 空位のある1000未満の数の記数法を理解し、位取
(⑤重視) り原理の理解を深める。

内容 数の書き方を206本のストローが描かれている図を
もとに位取り板、数カードと対応させながら考える。

4時間目 目標 1000未満の数の構成について理解する。

(⑤重視) 内容 位取り板と数カードをもとに数の構成を考える。

5時間目 目標 数の相対的な大きさについて理解する。

(⑤重視) 内容 半具体物（10円玉・100円玉の模擬貨幣）を用い、
10が10以上ある時の数の数え方や、何百は10が
いくつ分かを考える。

6時間目 目標 1000より大きい数についても「数のまとまり」を
(④重視) 作って数える良さに気づき、用いる。

内容 1000未満の数で学んだことを生かし、1000枚
の1円玉を、「数のまとまり」を用いて数える。

図を提示

りは何個
のまとま
えて、ス
を確認す

3位数の
ている。

数の書き
に、考え

6の記数
正しい書
うにする。

を表す0
るととも
通して、

- 6 【もんだい】先生の1円玉ちよきんばこには、何円たまっているか

【かだい】かんたんに数えるほうほうを考えよう。

1まいずつかぞえたら、大変だ。
一気に100枚数えようと思ったら、途中で分からなくなっちゃった。
まず、10まいずつまとめて、10円のまとまりしよう。
10円のまとまりを10あつめて、100円にしよう。
100円のまとまりが10あつまった。1000円だ。
先生はびんぼうだね。ぼくはもつと金を持っているよ。

【全体交流】

- ・数えるのに時間が
- ・一気に
- ・10
- ・10
- ・1円
- ・10

○効果的な指導を進めるためのポイント④

（前時までの学習を生かした、1000の指導）

1時間目で学習したまとまりを作って数える良さが、ここでも生
かされる。数え方については、「10のまとまり」を10あつめて
「100のまとまり」をつくった学習をもとに、「100のまとまり」
を10あつめて「1000のまとまり」をつくればよいと気づくよ
うに支援する。そして、十進位取りについての考え方や記数法につ
いての理解を深めるようにする。

・1000枚を班ごとに
手分けして数えていく。
考：10や100のまと
まりを使って数える良さ
に気づき、用いようとし
ている。【観察・発言】

○ミニ積み木取りゲーム
や数え棒取りゲームを想
起させて、まとまりをつ
くって数える良さに気付
くようにする

・4位数以上の大きな数
になると、具体的に数え
たり、操作したりする機
会が少なくなる。実際に
数える活動を通して、
「千」の大きさを、量感
をともなつてとらえられ
るようにする。

100のまとまりが10だから、これでいい。

100のくらい	10のくらい	1のくらい
1	0	0

でも、1つのくらいには、9までしか入らなかった。
10が10あつまったとき、左に100のくらいをつくったよ。
左に、あたらしい位をつくって1を書けばいいんだ。
1000と書けばいいんだ。

指導事項

100を10あつめた数を、「千」といい、1000と書きます。

1000のくらい	100のくらい	10のくらい	1のくらい
1	0	0	0

1000は、何を、何個集めた数かな。



1を1000こ。100を10こ。
10を100こ。

れんしゅうしよう。

○左の位取り板を提示し、既習の位取りの原理と記数法から類推して考えられるようにする。

・理解を深めるため、「・」が千個ならんでいるドット図を提示する。

○1000の大きさを、10や100のまとまりに着目してとらえるように習熟・定着を図る。

- 7 ○2位数の数系列をもとに3位数の数系列を考えて、数直線の数を読むようにしていく。
○数直線上の数を読む活動を通して、1000までの数の系列、順序についての理解を図る。

- 8 ^{もんだい} ミニ運動会をしました。
白組は758てん。青組
1いは何組、2いは何組

^{かだい} 数の大きさをくらべるに

大きな位の数からくらべ
100の位は白組と青組
10の位は白組が5で青組
数カードと位取り板で

①758

100	100	10	1	1
100	100	10	1	1
100	100	10	1	1
100	100	10	1	1
100	100	10	1	1

100のくらい	10のくらい	1のくらい
7	5	8

○効果的な指導を進めるためのポイント⑤ (評価にかかわって)

単に「できた、できない」ではなく、「ここまでできた、ここまでわかるようになった」と肯定的に子どもを評価していくことが大切である。(個人内評価の重視)

また、評価規準に照らし合わせて一人ひとりの解決を見取るとき、つまずきの見られる子への支援を事前に計画・準備しておくことで、効果的な支援を図ることができる。

・順位を決めるためには、数の大小が分からなければならぬことをおさえる。

考: 数の大小を判断するために、大きい位から順に、同じ位どうしの数どうしを比較している。

○2位数の場合の数の大小の比較方法を例示して、位取り板をもとに考えるようにする。

【全体交流】

白組と青組は1000より7つあるけれど、あか組は6つしかないね
あか組は3いだね。

1
白組
青組

1
白組
青組

○効果的な指導を進めるためのポイント⑥ (意味理解を図る工夫)

本単元では、何百匹の動物が描かれている絵、ミニ積み木・数え棒など、具体物や半具体物を数のまとまりを作って数える活動に取り組んだ。その後に、位取り板に数に対応させたり、数を数カードで表したり、位取り板に数カードに対応させる活動を何度も取り入れた。位取り板に数カードに対応させることによって、位取り原理の理解が視覚的にも理解しやすい。

○どんな順番で、何の位に着目して比べたのか、

- 9 ○何十たす何十のような加法計算を、10を単位として、1位数の計算に帰着して考える活動や、百何十ひく何十のような減法計算を、10を単位として、2位数や1位数の計算に帰着して考える活動を通して、数の大きさを多面的にとらえることができるようにする。